

令和5年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立岩松小学校

1 自己評価書

教育目標	ふるさとを愛し、共に学び、未来を拓く、岩松の子どもを育てる					
基本方針	学校創立以来、150年間で築かれた岩松小教育の歴史と伝統を継承・発展させるとともに、持続可能な未来を拓く岩松つ子を育成するため、学校運営協議会との連携を図り、「誠意・熱意・創意」を合言葉にして、学校・地域・保護者が一体となった「子ども・教職員・保護者・地域」の4つの輝く愛顔があふれる学校づくりを目指す。					
本年度重点目標	1 確かな学力を育てる教育の推進 2 安全・安心で充実した教育環境の整備 3 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4 特別支援教育の充実					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A A	A	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
		ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A	
	③ 家庭学習の充実	一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
			読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A		
(成果と課題) ○読書に関して、児童の評価が低かったので、できるだけ声掛けを行った。しかし、状況はまだ十分ではない。 ○iPadの活用が増えた。地域の調べ学習は、難しかった。						
(改善策等) ○図書室へ足を運ぶ回数を増やすなど地道に取組を継続していく。読書、図書室利用の声掛け ○学年に応じた課題を設定し、調べ学習に取り組みたい。						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A	
	③ 基本的な生活習慣の徹底	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にを行った(自分にはいいところがある)。			・教師アンケート ・児童アンケート	A A	A	
④ 自己肯定感 等	自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	B A	A		
(成果と課題) ○自己肯定感、有用感を持たせるために、声掛けを意識して行っている。 ○全校で聞くことに力を入れたい。放送・前に立った人の話等聞けていない児童が多いように思う。 ○体育倉庫・掃除の片付け・トイレのスリッパ等、確認や見届けが必要である。また、子供たちの意識を変えるための工夫や手立ても必要である。						
(改善策等) ○数字に表れるまでに時間がかかるかもしれないが、子どもを褒めて伸ばすという気持ちを忘れずに継続した取組をしていく。 ○自己肯定感についての取組の場を設け、子どもにも意識させたい。 ○トイレのスリッパは、置く場所の指定(足型)をする。 ○体育倉庫は、道具を戻す場所の指定や、数が確認できるようにする。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A A	A
	②	働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとられることなく取り組んだ。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート ・教師アンケート	A A	A A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
<p>(成果と課題) ○時間外勤務の時間は、昨年度より減ってきている。時間外勤務を減らす意識で学校が取り組んでいる。 ○校時表の工夫で、放課後の時間に余裕ができた。そのため、帰る時刻が早くなった。 ○コロナでたくさん教育活動が削除されてきたが、集団で集まる場や発表する場(集会等)の必要性を感じた。忙しい中ではあるが、やったことは子供たちの成果につながる。</p> <p>(改善策等) ○時間のやり繰りで時間外勤務を減らすことに成功しているので、そこは継続しなくてはいけない。しかし、児童の成長を促すための機会を減らすことにならないように、慎重に「働き方改革」を進める。</p>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A A	A
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A
	③	来校・相談体制	保護者や地域の方々の方が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A
<p>(成果と課題) ○全ての項目でA評価である。ホームページに動画を掲載するなど、新たな取組も高評価につながった。 ○学校運営協議会・地域学校協働活動については、よく活動していると思うが、マンネリ化している部分があることも否めない。</p> <p>(改善策等) ○地域学校協働活動をマンネリ化させないために、学校運営協議会で御意見をいただき、可能なことは実践してみる。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満